

俳諧文庫
二十

秋の文庫
秋詠藁

~ 4

4448



副地もく 桐のいふをふまると
あふまじり 美林のむら
降るあふ山路之りよ者の火地
しりかられく 吾徒哉 其のまを
あふく 秋無くさひり 美あふ
いりりるより 哀とふ也 正庸

福舟

をいかに 行田のいふ かき
あふのあふ 舟
城の男、田の志、枝の 掉
あふの 橋穂の 文
あふの 文
あふの 文

はむ稲少孫ちやの忍ゆん 正忠

秋の勢平少穂とほしほ 恒之次

こしつ小田たつづ稲津 秀貞

志つ男みなとれ小田平若む稲乃

高月子とそし美林のうら 隆

國ゆいふむの稲津は 恒之次

こ月横舟乃たつづ稲津 恒之次

敏政

新まのつとこし小田をわああて 久考ら

はむ稲津はむ稲津

みあお田平少稲津はむ稲津 元俊

はむ稲津はむ稲津

恒之次はむ田平若む稲津 文敏

河来りこし稲津はむ稲津

おあふたれつと若くはあす男の

積ていしんをく指す 正庸

白路をれいりあまう 指の

あふつうしつ指す 知儀

川いなるてし小田かろ 忠政

とたはしんをく指す 忠政

小庭物語

いしんをく指す

信

秋の白あふくを物人

いしんをく指す 正庸

いしんをく指す 正庸

物人いしんをく指す 正庸

かいてまうくの小たな 敏政

きぬえて指すとなこも 正庸

床たらしと指す 正庸

いそせむや 十三年の春に
おのれらりて 尺を結ん
らりて 志小をい
枝平は 志政

月教書

秋の 一に 志小の
いと 十三年の春に 秀久

小松ふ 一に 志小の
人の 一に 志小の
い 十三年の春に 志政
志の 一に 志小の
月 十三年の春に 志政
わ 十三年の春に 志政
い 十三年の春に 志政

さしきく月の夜も静か
久野

はらへしとが針を糸をよして
久野

あふよかをを斗を松の下
久野

こふもをよえんたの
正志

かふ心なしたの
Booster

おとの地ふた
いながて

文敏

やうなまきおのひち袖
西庸

あひ涙
西庸

徳も
西庸

うはの
西庸

人
西庸

し
西庸

西翁

所 治 平 三 三 夜 半 九 村 書 性

引 法 音 書 書 付 記 一 大 宗 師 書 付 記 武

文 行 三 三 三 三 三 三 三 三 忠 政

傀儡

引 三 三 三 三 三 三 三 三 敏 政

三 三 三 三 三 三 三 三 敏 政

川 三 三 三 三 三 三 三 三

元 俊

結 三 三 三 三 三 三 三 三

浮 三 三 三 三 三 三 三 三 三 忠

三 三 三 三 三 三 三 三

三 三 三 三 三 三 三 三 三 忠

三 三 三 三 三 三 三 三 三 忠

三 三 三 三 三 三 三 三 三 忠

三 三 三 三 三 三 三 三 三 忠

川口大進士の書
忠政

